

平成 21 年 11 月 30 日

各 位

石油資源開発株式会社
大阪ガス株式会社
株式会社ジャパンエナジー
エルエヌジージャパン株式会社

インドネシア共和国におけるコールベッドメタン(CBM)鉱区権益取得について

石油資源開発株式会社(本社：東京、社長：渡辺 修)、大阪ガス株式会社(本社：大阪、社長：尾崎 裕)、ジャパンエナジー石油開発株式会社(本社：東京、社長：森田 憲司、株式会社ジャパンエナジーの 100%子会社)、エルエヌジージャパン株式会社(本社：東京、社長：米澤 健一)の 4 社は、BP 社(英国)、ENI 社(イタリア)、Opicoil Energy 社(台湾)と共同でインドネシア共和国エネルギー鉱物資源省が実施した国際入札を通じて、サンガサンガ CBM 鉱区を落札し、本日、インドネシア政府と生産物分与契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

サンガサンガ CBM 鉱区は、面積 1,747 平方キロメートルで、同国東カリマンタンに位置しており、4 社が株式会社ユニバースガスアンドオイルを通じて権益を保有するサンガサンガ鉱区と同一地域を占めています。また、本事業を推進するため日本コールベッドメタン株式会社を設立しましたので、併せてご報告いたします。

記

1. 日本コールベッドメタン株式会社の概要

商号	日本コールベッドメタン株式会社 (英文名：Japan CBM Limited)	
所在地	東京都千代田区丸の内 1-7-12	
代表者	代表取締役社長 揖斐 敏夫	
設立年月日	2009 年(平成 21 年)11 月 30 日	
資本金	75 百万円	
株主構成	石油資源開発(株)	40.12%
	大阪ガス(株)	40.12%
	ジャパンエナジー石油開発(株)	14.97%
	エルエヌジージャパン(株)	4.79%

2. 鉱区の概要

鉱区名	位置	面積	権益比率	
サンガサンガ CBM 鉱区	東カリマンタン州陸上	1,747 km ²	Japan CBM 社	4.375%
			BP 社	26.25%
			ENI 社	26.25%
			VICO 社	7.5%
			VIC 社	15.625%
			Opicoil Energy 社	20.00%

※オペレーター：VICO 社

※VICO 社及びVIC 社は、BP 社と ENI 社が各 50%出資をしているプロジェクト会社です。

以上

問い合わせ先：

石油資源開発株式会社	広報 IR 部	長谷川	電話：03-6268-7110
大阪ガス株式会社	広報部	絹川	電話：06-6205-4515
株式会社ジャパンエナジー	総務人事部	高田	電話：03-5573-6100
エルエヌジージャパン株式会社	企画業務部	宮沢	電話：03-6229-3445

参考

【コールベッドメタン(CBM)について】

コールベッドメタン(CBM)は、石炭層から抽出されるメタンガスです。インドネシアには膨大な CBM が賦存する可能性があると考えられており、CBM の資源量は 450 兆立方フィート、鉱区が位置するクタイ堆積盆地だけでも 80 兆立方フィートに及ぶと推定されています。しかしながら、インドネシアではこれまでのところ、商業ベースの CBM 生産は行われていません。

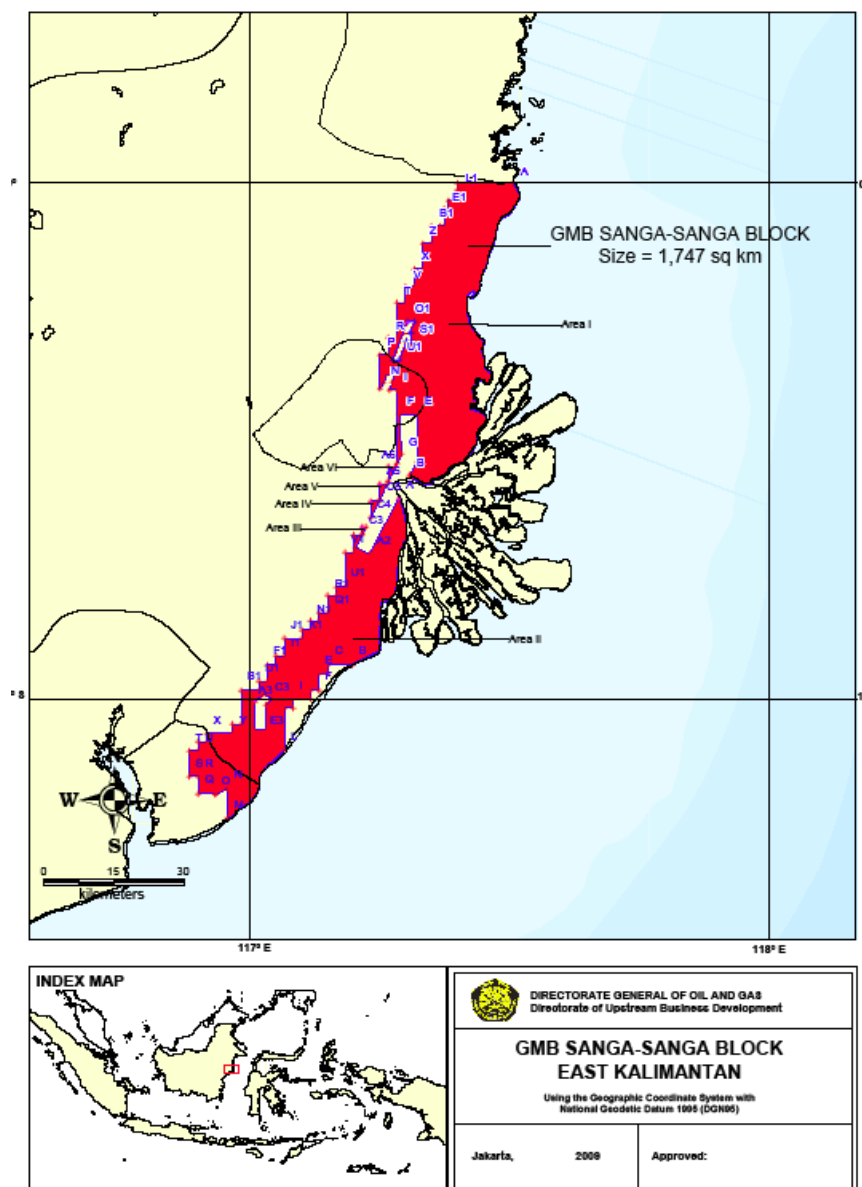
【株式会社ユニバースガスアンドオイルについて】

1990 年 6 月、石油資源開発(株)は大阪ガス(株)と共同でサンガサンガ鉱区に権益 4.375%を持つ Universe Gas and Oil 社(リベリア法人)の株式を取得、同年 8 月、石油公団(当時)、ジャパンエナジー石油開発(株)、エルエヌジージャパン(株)の出資を得て(株)ユニバースガスアンドオイル(日本法人)を設立しました。サンガサンガ鉱区で生産されたガスはボンタン LNG プラントに送られ、日本、韓国、台湾等向けに出荷されており、2008 年の実績は 43 カーゴ(約 250 万トン)となっています。

【CBM 開発について】

BP は CBM 開発における世界的なリーダー企業であり、米国を中心とする大規模 CBM プロジェクトの操業実績を有しています。また、オペレーターの VICO はサンガサンガ鉱区で 40 年以上に亘り操業を行っており、広範囲のパイプライン網、コンプレッサー施設を含む、同鉱区の既存設備を有効に活用することにより、早期に CBM の生産を開始できるものと期待しています。

【鉱区位置図】 サンガサンガ CBM 鉱区



※鉱区名は「GMB SANGA-SANGA」（「GMB」はインドネシア語でコールベッドメタンを意味します。）